

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 23 年 3 月 9 日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3470204243		
法人名	株式会社広の島		
事業所名	グループホーム古の市		
所在地	広島市安佐南区古市3-5-3 (電話)082-877-1413		
自己評価作成日	平成23年1月28日	評価結果市町受理日	

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人医療福祉近代化プロジェクト
所在地	広島市安佐北区口田南4-46-9
訪問調査日	平成23年2月22日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点(事業所記入)】

<p>誰にとっても落ち着ける環境をつくり、こころのバリアフリーを目指します。 行事などよりも食事や洗濯などの日常的な生活を支援することや、職員が安心して働ける環境作りに配慮していきたいと思えます。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>グループホーム古の市は国道沿いに面した交通の便が良い場所にあり、7人の小人数のホームです。馴染みの職員は利用者の気持ちに寄り添いながら思いや、希望を受け止め、機能維持向上に生活の支援をされています。利用者、職員は家族のような雰囲気とその人らしく暮らせるよう理念の実践に向けて取り組まれています。最近室内の防災設備を(内装、ドア、台所の電化)充実され生活の安心、安全に努められています。</p>

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念を念頭におき実践するように努めているが、十分ではない。	古の市の理念である心のバリアフリー（誰でもが落ち着ける環境づくり）を職員全員は心のタスキを渡しながら実践につなげられている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している。	町内会の会員になり、回覧板を持参したり、地域の施設や町内の行事に参加することがあるが、日常的には交流できていない。	地域の一人として町内会に入り地域の行事（神社の祭り、盆踊り）に参加され、職員は町内の環境清掃、祭りの縄貼りなどに参加されている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域の人々に向けての取り組みが具体的に出来ていない。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	日々の生活や行事中心の話題になりやすく、意見をサービスの向上に活かしていきれていない状況ではあるが、消防署やマンションの管理会社の方に参加して頂いたり、家族アンケートをとり会議で検討したりして、サービスの向上を目指している。	消防署、町内会からはマンションの管理者、包括支援センターの職員、家族、管理者、職員の参加で開催され、家族アンケートを検討したり、参加者の意見を聞きサービスの向上に活かされている。	
5	4	市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組を積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	法的な疑問点等がある時は市役所に連絡をして、質問したり、会議の報告等を行っている。運営推進会議へは年1～2回出席がある。	市役所の介護保健課に運営推進会議の報告がされ、法的な質問や、わからない事があれば連絡されている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束について理解はしているが、全職員への周知徹底は十分ではない。夜間の防犯の目的以外には玄関や窓に施錠はせず、外へでたり、転倒の危険のある入居者の部屋にはセンサーを設置し対応している。	身体拘束について職員は理解されている。玄関の施錠はされていない。ベランダに出られることがありベランダにセンサーが設置されている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	一部の職員が研修に参加しているが、施設内で学ぶ機会はほとんどない。職員間で職員、入居者の状態を話しあう程度である。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	一部の職員は理解しているが全員は出来ていない。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居時に出来るだけ理解納得を得られるよう努めている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	管理者や職員に直接表せる機会を設けたり、家族アンケートをとったり、運営推進会議の中で報告する機会を持っている。	面会時に直接話される機会を設けられている。アンケートをとり意見や要望を聞き、それを反映されいたが、アンケート内容を変えてとられてみると、多くの意見を出されるようになり運営に反映されている。	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	申し送り時などに職員の意見、提案などを出し、反映に努めている。	事業者、管理者に直接話したり意見や提案を申し送りの際、伝えられ反映されている。職員の勤務状況や家族の状況に合わせて柔軟な配慮がされ働きやすい職場環境に努められている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員勤務状況を把握し、職員の家庭状況等に合わせて労働時間を配慮したり、各自がやりがいをもち働きやすい環境作りを目指しているが十分ではない。		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員の力量にあわせて、必要であれば施設内でトレーニングを行ったり、職員同士でフォローしあえる環境を作っているが、研修に参加する機会は少なく、十分ではない。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	地域の同業者と交流する機会をまだもてていない。		

グループホーム古の市

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>利用前に見学していただいたり、訪問するなど、信頼関係をつくる努力をしている。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>利用者の状況や家族の思いを聴いて信頼関係が作れるように努力している。費用や通院等についてなど、具体的な情報提供を十分におこなうようにしている。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>家族や担当ケアマネージャー、利用していたサービス機関から、情報収集を十分に行い、入所前からホームの職員に情報提供をし、必要なケアや環境の検討を行い、受け入れ態勢を整えるようにしている。そして入所時の利用者の状況をみて、ケアを再検討し、対応している。</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>料理を教えて頂いたり、会話の中で人生の先輩としての考えを学んだりし、支えあう関係を築けるよう努力をしている。</p>		
19		<p>本人と共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>家族の状況、環境に配慮しながら一緒に支えていく関係を築けるよう努めている。</p>		
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>希望時に電話や面会を受け入れる程度で、積極的な支援はしていない。</p>	<p>利用者の友達が電話をかけられたり、面会に来られたり馴染みの関係が途切れないよう支援される。</p>	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。</p>	<p>互いの関係に配慮して孤立せずに関わりあえるよう支援に努めている。</p>		
22		<p>関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。</p>	<p>必要に応じて継続的に関わっている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりの中で思いや意向の把握に努めているが、把握した事に対して十分に対応できていない。	利用者の思いが汲み取れるよう日々努められて、今の気持ちを受け止める対応がされていた。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人、家族、利用していたサービス機関からの情報を収集し把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	一日の過ごし方心身状態などを総合的に把握するよう努めている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	職員の話し合いはしているが、家族や関係者から十分に意見を反映できていない。家族から介護計画についての具体的な意見が出にくく、意見の求め方に工夫が必要である。現状をみて随時見直しをしているが、介護計画を十分に活用できていない。	職員全員の話し合いがされ、家族の要望を聞き、状況の変化に応じて現状に対応できるよう随時見直しがされている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	毎日日々の状況を個別記録に記入し、また医師や看護士からの指示や援助が変更した場合、注意点などはノートにも記入し、職員全員が情報を共有し、その都度話し合いをしながら援助をするようにしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	通院介助や地域の商店や理容院への外出を行っている。又、医療連携体制をとり、医療との連携をより円滑に出来るように努めている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	消防署には運営会議や消防訓練で助言指導して頂いたりしているが、その他は協力できるような体制が整っていない。		
30	11	かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	看護職員による健康観察は常時かかりつけ医に報告され、状態に合わせて薬が処方されている。定期健診や、異常時には時間外でも早期に対応できるように電話で報告指示をもらったり、必要に応じて往診や看護師が同行し通院介助をしている。	2週間に1回はかかりつけ医の受診を受け、状態の変化があれば医師に連絡し看護師が同行し受診される。必要に応じ往診もあり、適切な医療が受けられる支援がされる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	看護職員も介護職員と同様の仕事をしており、互いに情報を共有し、看護職員は利用者が適切な受診や看護を受けられるように努めている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関とは連携できるよう努めているが、その他の医療機関とは十分ではない。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	本人、家族の希望に沿えるよう、協力医療機関と連携をとりながら、支援に取り組んでいる。	終末期のあり方について利用者、家族と話し合い希望に添えるよう医療機関、看護師、職員で支援されている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変や事故発生時の対応について、口頭で説明や話し合いはしているが、定期に訓練はできておらず、一部の職員しか実践力が身についていない。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	避難経路、避難場所、消火器の使用方法は定期的に訓練を行い、訓練に参加できなかった職員にも資料を配布して周知徹底を心がけているが、地震水害時の訓練や地域との協力体制は十分ではない。	年2回夜間を想定して、消防署の指導のもと、通報、消火、避難の訓練が行われる。今回は防災工事がされ防火扉、キッチンガスを電化にかえられている。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねることがないように注意して対応し、人格の尊重を心がけているが、配慮が足りない事も多い。	言葉づかいには気をつけられて、接遇など一人ひとりの尊厳を守る配慮がされていた。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	利用者が自己決定できるようにゆっくりと一人ひとりのペースに合わせ支援するよう努めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人ひとりのペースを大切に、希望に沿えるよう努めているが、純分にできていない。		

グループホーム古の市

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	ホームの近くの店を利用しており、本人の望む店には行けていない。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	入居者の心身の状態をみながら、出来るだけ入居者と一緒に行うよ心がけているが、入居者の重度化に伴い、一緒に行う機会が少なくなってきている。	利用者も食事づくりの手伝いをし、作られている。一人ひとりに応じてミキサー食、刻み食が提供され栄養ドリンクなどで補給されている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一人ひとりの食事量、水分量、排泄量を把握し、少ない方には本人の摂取しやすいものに変えるなどし、確保できるよう支援している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	本人の生活リズムに合わせ、全員が毎食後ではないが状態に応じて対応している。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	重度の高齢者が多く、全員にはできていないが、ひとり一人の排泄パターンや習慣に合わせて、トイレ誘導をしたり、排泄介助を行っている。	排泄パターンを把握し、声かけ誘導し支援されている。尿カテーテルを入れた方もあり一人ひとりに合わせた排泄介助がされている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	便秘傾向の方には、水分や乳製品を積極的にとってもらったりしている。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	週2回と希望日に入浴又はシャワー浴をして頂いている。拒否される事がある方や、身体状態の不安定な方はタイミングと体調に合わせて、時間や日をかえて、支援している。日中のみしか対応できていない。	週2回の入浴を支援されているが、利用者の気分に添って時間や日を変えてみたり、便失禁などがあればシャワーや入浴の支援がされている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	入居者一人ひとりの睡眠パターンを把握し、薬を使用せず安眠できるように支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の内容を理解し、服薬確認症状に変化がないか注意を払っている。		

グループホーム古の市

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割,楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割,嗜好品,楽しみごと,気分転換等の支援をしている。	料理や編み物、歌など、一人ひとりの生活歴や好みに合わせて支援するよう心がけているが、入居者が重度化してきており、十分に出来ていない。		
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	買い物、ドライブや初詣や花見等の行事など、外出支援をしているが、その日の希望にそってはできておらず、家族や地域の人の協力体制はできていない。	買い物、ドライブ、初詣、お花見など外出支援がされている。重度の方も希望される時に外出ができない場合もある	気候の良い日に元気な方は短時間でも散歩される等、外出し、気分の転換を図られることを期待します。
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭を紛失したことがあり自分で保管する事を不安に思われて人が多く、職員が管理し個別に出納帳をつけている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	現在は手紙のやりとりはされていないが、希望時に電話はして頂いている。		
52	19	居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居者にとって不快や混乱をまねくような事がないよう配慮をし、出来るだけ居心地よく過ごしてもらえるように家庭的な空間づくりを心がけているが、季節感の花や行事のものを時々飾る程度で工夫ができていない。	7人の小人数だけに利用者同士家族のような雰囲気でもリビングに集まり談話され、ゆったりと過ごされている場所でした。	建物の構造上、特に換気は必要であり、臭いが籠もらない様、工夫される事を望みます。
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングのソファやテーブルで思い思いに過ごされるが、静かに独りきりになれるスペースがない。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	自宅で使われてたものを持ってきてもらい、居心地よく過ごせる空間づくりを心がけているが、居室の広さに制約があるため、断る場合もある。	居室には家族の写真や、使い慣れた備品が持ち込まれ、安心して過ごせるよう配慮されている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	混乱や失敗を防いで、入居者の動きを制限せず、できることを活かしていけるよう、入居者の心身の状態をよく観察して対応するよう心がけている。要所へ滑り止めや手すり等を設置したりと、安全に生活してもらえるように工夫しているが、設備上の問題もあり、限度があるので、十分ではない。		